

品目	2010年度 (実績)		2011年度 (見込み)				2012年度 (見通し)		コメント		
	10億円		伸比率		10億円		伸比率				
	伸比率	伸比率	伸比率	伸比率	伸比率	伸比率	伸比率				
<b>総額</b>	62,413	+16.0%	34,480	+12.1%	32,552	+2.9%	67,031	+7.4%	↓ 65,965	▲1.6%	
IM 01 食料品	5,307	+6.7%	3,049	+11.6%	2,596	+0.8%	5,645	+6.4%	↓ 5,501	▲2.6%	魚介類、肉類に次いで金額の大きい果実及び野菜では、主に中国野菜の産地価格上昇に伴い輸入価格が上昇。原発事故の影響に伴う国産野菜から輸入野菜へのシフトは顕著には見えず。果実の中で最も輸入量が多いイチゴはダイエットブーム終了後も売れ行きは好調。
魚介類	1,285	+7.3%	667	+2.7%	640	+0.7%	1,307	+1.7%	↓ 1,268	▲3.0%	えびは、10月のタイ洪水の影響は限定的だが、3月末の洪水の影響が依然残る。ベトナムでのえびの感染病流行を受けて価格は上昇し、輸入量は減少。また、中国等の新興国での需要拡大も価格を押し上げる要因。まぐろは、漁獲規制の強化を背景として、価格上昇。
肉類	998	+13.9%	548	+5.6%	456	▲4.7%	1,004	+0.6%	→ 1,000	▲0.4%	牛肉は、集団食中毒事件を受けての消費落ち込みから、輸入品の在庫が増加。豚肉は、世界的な需要増、飼料価格の上昇を受けて輸入量の増加は見込めず。鶏肉は上半期に輸入在庫が増加したこと、主要輸入先であるブラジル産品の価格上昇から、下半期は輸入量の調整が行われる。
IM 02 原料品	5,050	+40.7%	2,750	+11.9%	2,600	+0.3%	5,350	+5.9%	→ 5,400	+0.9%	下半期は、一部で震災からの復旧による原料需要の回復も見込まれるが、世界経済減速や円高によって製品輸出が伸び悩むことを受けて輸入数量は上半期を下回る。また、上半期に高水準で推移した市況が下半期は軟調に推移することから金額でも上半期を下回る。
鉄鉱石	1,512	+86.1%	893	+25.6%	839	+4.7%	1,732	+14.5%	↓ 1,700	▲1.8%	下半期は、復興需要も一部見込まれるが、円高による輸出不振と欧米の債務問題を端緒とする世界的な景気後退のありを受け、粗鋼生産量が上半期を若干下回る水準となることや市況軟化から、金額は上半期を下回る。
非鉄金属鉱	1,487	+26.0%	706	▲4.2%	680	▲9.4%	1,386	▲6.8%	→ 1,390	+0.3%	下半期は、鋼製錬所が震災の被害から復旧することにより数量増が見込まれる一方、単価が上半期の高水準から下落することにより、金額としては上半期から減少。
IM 03 鉱物性燃料	18,122	+18.8%	10,956	+27.3%	10,195	+7.1%	21,151	+16.7%	↓ 19,548	▲7.6%	原油価格の上昇、原発停止の影響により、LNGや石油製品の需要が拡大したことを主因に大幅増。
原油及び粗油	9,756	+13.6%	5,693	+24.9%	4,930	▲5.1%	10,623	+8.9%	↓ 9,804	▲7.7%	原油価格は上半期中東情勢の緊迫化や新興国の堅調な需要を背景に上昇。通年でも上昇を想定。輸入数量は、上半期は精製マージンが上昇傾向にあったことや、震災後特に夏場の電力需要期における旺盛な生炭原油需要に下支えされるも、震災による需要減も手伝って2010年から続く国内全体需要の減少傾向には歯止めがかからず、減少。下半期は、原発不稼働の影響で電力会社の冬場の原油消費増が影響し一時的な増加が予想されるも、微減を見込む。
石油製品	1,705	+27.6%	1,138	+47.7%	1,125	+20.3%	2,263	+32.7%	↓ 1,750	▲22.7%	原油価格の上昇に伴い、輸入価格も上昇。輸入数量は、上半期は震災の影響により複数の製油所稼働が停止、主に韓国からの石油製品輸入が増加した。現在も2製油所が停止しており、2010年度比輸入数量の増加を見込む。
LNG	3,536	+23.9%	2,429	+40.3%	2,530	+40.2%	4,959	+40.2%	↓ 4,867	▲1.8%	原油価格の上昇に連動し、LNG価格も上昇。輸入数量は上半期は震災後の原子力代替需要により10%以上の増加となっており、この状況は下半期も継続する見込み。
LPG	828	+28.7%	442	+12.5%	408	▲6.3%	850	+2.7%	↓ 803	▲5.5%	原油価格上昇に連動し輸入価格は上昇。輸入数量は、生産品の供給減が見込まれるものの、震災影響から通年で若干減少。生産活動の回復の遅れから工業用需要の回復が限定的で、家庭用需要も上半期は震災による需要抑制の影響で減速。
石炭	2,255	+24.2%	1,238	+9.6%	1,182	+5.0%	2,420	+7.3%	↓ 2,284	▲5.6%	輸入数量は、震災による鉄鋼の減産や一部火力発電所の稼働停止に伴い、原料炭、一般炭いずれも上半期を中心に減少。しかし、中国など新興国での需要拡大や豪州洪水による供給力の低下により、輸入価格が上半期に急騰し、下半期も2010年度下半期を上回る水準を維持。このため、通年の輸入金額は増加。
IM 04 化学製品	5,462	+13.2%	3,194	+16.6%	2,978	+9.4%	6,172	+13.0%	→ 6,141	▲0.5%	上半期は震災の影響と円高による価格競争力向上で増加。ただし、その後在庫の水準が高まる品目が増えており、ひとまず輸入の増勢は一巡へ。
IM 05 原料別製品	5,554	+22.8%	3,173	+13.7%	2,900	+5.0%	6,073	+9.3%	→ 6,100	+0.5%	原料別製品は、下半期は震災の影響による一時的な輸入が一段落することや、タイ洪水及び欧州情勢などを受けた世界経済の先行き不透明感から国内需要が伸び悩み、上半期比減少となるものの、通年では1割近い増加。
鉄鋼	811	+62.2%	476	+18.1%	444	+8.8%	921	+13.4%	↑ 941	+2.2%	鉄鋼製品は、年初来、2010年度を上回るレベルで輸入が続いている。特に韓国の生産能力拡大により供給が増加する一方、同国内需要の減退から、同国のウエイトが高まっている。震災復興需要向け等に、当面この傾向が続く。
非鉄金属	1,674	+46.0%	992	+16.3%	820	▲0.1%	1,812	+8.3%	↑ 1,850	+2.1%	アルミニウム及び同合金は、下半期が飲料業界の缶不需要期となることに加え、欧米景気への懸念、タイ洪水等から国内製造業向けの需要が伸び悩み、減少。白金族の金属は市況は横ばいで推移するものの、欧米財政問題の先行き不透明感を背景に自動車産業の触媒向けや電子材需要が伸び悩み、上半期を若干下回る。非鉄金属全体では、上半期比減少。
織物用糸・繊維製品	648	+2.6%	376	+19.0%	321	▲3.3%	696	+7.5%	↓ 658	▲5.5%	震災の影響により、上半期に海外調達が大増。下半期は、震災の影響一巡に加え、円高による単価下落や、タイ洪水が下押し要因となり、減少に転じるが、通年では2006年度(+9.1%)以来の高い伸びに。
非金属鉱物製品	551	+9.7%	290	+5.1%	295	+7.0%	585	+6.1%	↑ 600	+2.6%	ガラス及び同製品は、住宅着工に回復の動きが見られることや自動車生産における震災の影響が弱まることから、下半期は住宅向け、自動車向けともに増加。
IM 06 一般機械	4,892	+13.3%	2,506	+1.1%	2,490	+3.1%	4,996	+2.1%	↑ 5,080	+1.7%	電算機類は、コモディティ化の進行が早く、価格は下落傾向。数量は伸びが鈍化し、微増。タイ洪水により、一部部品には価格上昇圧力がかかる。
電算機類(含周辺機器)	1,570	+16.0%	803	+3.6%	813	+2.3%	1,616	+2.9%	↑ 1,633	+1.0%	2010年度に盛り上がった買い替え需要の反動が企業を中心に起きているため、伸びが大幅に鈍化。下半期のタイ洪水によるサプライチェーンの途絶も、輸入を押し下げる要因に。
IM 07 電気機器	8,207	+17.2%	3,896	▲4.4%	3,900	▲5.6%	7,796	▲5.0%	↑ 8,132	+4.3%	電子部品の数量は堅調に推移。ただし、コモディティ化が進行し、価格は低下。通信機は、海外製スマートフォンへの切り替えにより、輸入金額が大幅増。家庭用電気機器は、上半期に震災全体による特需があったが、寄与度は限定的。全体としては、電子部品の価格低下が響き、減少。
半導体等電子部品	2,093	+9.0%	869	▲22.9%	900	▲6.8%	1,769	▲15.5%	↑ 1,859	+5.1%	PC向けは、個人向けが堅調。ただし、単価は円高、国内メーカーの競争激化で低下。携帯向けは、スマートフォン需要の高まりから、減少。家電向けは、上半期の反動などから下半期は減少。自動車向けは、下半期に低下で増えることから、増加。
IM 08 輸送用機器	1,724	+14.8%	830	▲3.8%	862	+0.1%	1,692	▲1.9%	↑ 1,927	+13.9%	自動車輸入は日本車と独メーカー車の輸入好調で増加。一方、航空機は新型機の引き渡しの遅れにより減少し、輸送用機器全体では減少。
自動車	643	+37.6%	358	+14.8%	364	+10.1%	722	+12.4%	↑ 731	+1.2%	日本車輸入増で輸入単価は上昇。円高影響で独メーカー車輸入も好調。
航空機類	360	▲10.6%	130	▲33.0%	140	▲15.3%	270	▲24.9%	↑ 396	+46.5%	新型機の引き渡しの遅れにより減少。
IM 09 その他	8,094	+3.4%	4,126	+2.6%	4,031	▲1.0%	8,157	+0.8%	→ 8,135	▲0.3%	衣類及び同付属品は、クールビズ・ウォームピズ関連商品や高機能下着が増加。精密機器類では、液晶デバイスが上半期に円高、液晶テレビ向け需要の拡大などを背景に中国・韓国等から輸入が増加したが、下半期には在庫調整、価格低下などにより減少。その他雑貨品は、プラスチック製品、玩具が円高、原材料価格の上昇などによって若干増加するが、記録媒体(含記録済)の減少傾向が続く。
衣類・同付属品	2,397	+4.4%	1,338	+13.7%	1,279	+4.8%	2,617	+9.2%	↓ 2,496	▲4.6%	節電の折、クールビズ・ウォームピズ関連商品や高機能下着の需要が盛り上がったことから、輸入の伸びが高まる。特に、男性用衣類は約2割増。
製品輸入	33,934	+13.1%	17,725	+4.5%	17,161	+1.2%	34,886	+2.8%	↑ 35,516	+1.8%	52.0%(前年度比▲2.3ポイント)
											53.8%(前年度比+1.8ポイント)

\*金額は億円単位を四捨五入、2011年度上半期の実績は9割速報ベース

\*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している